

さいたま市長年頭記者会見

平成28年1月5日（火曜日）

午前11時00分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長年頭記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の埼玉新聞さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 埼玉新聞 おはようございます。1月の幹事社を務めます埼玉新聞と申します。明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

それでは、早速ですが、市長から年頭のあいさつをお願いいたします。

市長年頭あいさつ

○ 市 長 皆さん、明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお喜びを申し上げます。旧年中は市政各般にわたり、ご理解、またご協力をいただき、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いたします。

ことは、さいたま市が平成13年5月に誕生してから15周年目の節目を迎えます。合併当時103万人だった人口は、国の推計値を上振れする伸びを見せ、昨年12月には127万人を突破いたしました。

平成17年に岩槻区が誕生してから昨年で10年を経過したところでもあり、さいたま市を構成する10区では、それぞれ個性を生かしたまちづくりが進んでおります。市政が今日まで順調に発展することができたのも、市民の皆様や企業、関係諸団体のお力添え、そして幾多の先人たちのご努力のたまものであると考えております。まずは、このことに深く感謝を申し上げたいと思います。

さて、さいたま市の昨年を振り返りますと、3月には北陸新幹線の金沢延伸に加え、上野東京ラインも開業し交通結節点として、さいたま市の役割が一段と高まることになりました。

4月には、小学校1年生からの英語教育でありますグローバルスタディ科が市内モデル3校でスタートいたしました。この取組は、政令指定都市で初のチャレンジであります。

また、7月には、これも政令指定都市初となる市内全小中学校での学校

給食の自校方式が実現をいたしました。

グローバル科については、私も昨年モデル校の一つにお邪魔いたしまして、楽しい授業の様子を拝見いたしました。新年度からは全校で実施を予定しております。子供たちには、この科目を通じて、異文化を受け入れる柔軟さや寛容さ、また世界に通じるコミュニケーション力や人間力を養ってもらいたいと思います。

また、5月には、議長を初め市議会議員の方々、またサッカー訪問団とともに韓国の水原市を訪問し、スポーツを初めとする友好交流に関する覚書を締結いたしました。水原市は、さいたま市と同様に大変サッカーが盛んな都市でもあります。お隣の国、韓国にこのような絆をつくることのできたことを大変うれしく思っております。

6月には、大宮盆栽美術館が平成22年3月の開館以来、来館者30万人を達成いたしました。30万人目の来館者はオーストラリアからいらしたご夫婦でございました。

世界盆栽大会のさいたま市の開催もいよいよ来年の4月に迫りました。しっかりと準備をし、さいたま市の盆栽文化のすばらしさを世界に発信していきたいと思っております。

9月には、埼玉県内や近隣の県にも大きな被害をもたらしました関東・東北豪雨がありました。さいたま市でも台風18号の接近に伴いまして、77世帯192名の方に避難勧告を発令し、床上浸水も49件に上る被害が発生いたしました。

また、10月には、さいたま市にもゆかりのある、北里大学特別栄誉教授であります大村智先生と、東京大学宇宙線研究所長であります梶田隆章先生のお二人がノーベル賞を受賞するという大変うれしいニュースがございました。

同じく10月には、新幹線でつながる16の自治体をさいたま市にお招きして、「東日本連携・創生フォーラム in さいたま」を開催いたしました。首長会議に参加いただきました12の都市と共同宣言を採択をして、経済交流、また観光振興に連携して取り組むことに合意いたしました。東日本の各都市を結ぶさいたま市の役割は、これからますます高まっていくと考えられます。

スポーツでは、昨年県内初の国際マラソン大会となります「第1回さいたま国際マラソン」を開催いたしました。リオデジャネイロ五輪を目指す女子トップランナーから市民ランナーまで8,703名が市内を駆け抜けました。

また、3回目となります「J:COM presents 2015 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」は、新たに女性選手やパラサイクリストにもご参加をいただきまして、秋晴れの中、大変盛り上がりを見せました。

Jリーグでは、浦和レッズが開幕連続無敗記録を更新し、Jリーグ第1ステージ優勝を果たしました。惜しくも年間優勝を逃してしまいましたが、天皇杯では準優勝をおさめるなど、頂点を目指す争いにしっかりと絡むことができたシーズンであったと思います。大宮アルディージャも0対2からの大逆転でJ2優勝を果たし、1シーズンでJ1への復帰を果たしてくれました。さいたま市は、再びJ1のチームを2つ擁する都市となります。両チームには、さいたま市のサッカーを大いに盛り上げ、ともにJ1王者を目指して頑張っていたいただきたいと思います。

世界での戦いに目を向けますと、「FIFA女子ワールドカップカナダ大会」では、さいたま市在住の佐々木則夫監督が率いますなでしこジャパンが決勝まで駒を進め、2大会連続の優勝は惜しくも逃しましたけれども、準優勝というすばらしい結果をもたらしてくれました。

また、ラグビーワールドカップでは、日本代表チームが南アフリカ代表にノーサイド間際のトライで勝利をおさめるなど、日本ラグビーの歴史を塗りかえる大活躍をしてくれました。

また、昨年11月には、私も出席し、「2020オリンピック・パラリンピック/ラグビーワールドカップ2019埼玉県推進委員会」が発足をし、県内全体で2つの国際的なスポーツイベントを盛り上げる体制ができました。さいたま市もサッカーとバスケットボールのオリンピック会場となることが決定しております。オリンピックまでいよいよ5年を切りました。これらの大会は、海外からも大勢の観客が来訪し、さいたま市にとって今後のまちづくりに大きな影響を及ぼすイベントであります。昨年のタウンミーティングでも、市民の皆様からオリンピック・パラリンピックに向けていろいろな声を伺いましたので、それらを生かしながら、ことしも準

備を進めてまいりたいと考えております。

文化芸術都市づくりについては、昨年から続くプレイベントに続きまして、いよいよことし、9月24日から79日間にわたりまして、「さいたまトリエンナーレ2016」を開催いたします。さいたま市では、このイベントを文化芸術都市としてのさいたま市を創造するための象徴的な、また中核的な取組として位置づけております。「未来の発見！」をテーマに、市内3会場を主体とするアートプロジェクトを初め、市民参加型の様々な仕掛けを用意しております。これからも市民の皆さんへの周知に努め、日本一参加者の多い市民の想像力の祭典として成功させたいと考えております。

また、昨年行いました市民意識調査の最新の結果では、さいたま市を「住みやすい」と感じる市民の割合が82.9%、さいたま市に「住み続けたい」と感じる市民の割合は84.3%と、いずれも調査開始以来、過去最高の数値となりました。昨年7月には、さいたま市を住みやすいと感じる市民の割合を2020年までに90%以上とすることを目指して「CS90運動」をスタートしました。

また、目前に迫っている人口減少や超高齢化といった課題を克服していくため、昨年11月に「さいたま市人口ビジョン」と「さいたま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、本市が国に先駆けて取り組み、住みやすさの向上や全ての世代が活躍できる環境づくり、産業の強化や広域連携などに取り組むものであります。

ことしは、「CS90運動」の2年目であり、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく取り組みを本格化させる年でもあります。同時に、ことしは「しあわせ倍増プラン2013」と「行財政改革推進プラン2013」の締めくくりの年度を迎えます。高品質経営市役所を実現する総まとめの年であり、しあわせ倍増に向けた取組の総まとめの年でもあります。子育て世代の住みやすさを一層高めるため、今年度内に着工する「(仮称)子ども総合センター」の整備を進めるとともに、待機児童ゼロを目指し、引き続き認可保育所、放課後児童クラブの増設に取り組んでまいります。

また、高齢者の健康寿命の延伸を図るために、「スマートウェルネスさいたま」のもとに、特定健康診査受診率の向上や生涯スポーツの振興に取り

組み、高齢者が地域コミュニティや、地域経済の担い手として活躍いただける仕組みの充実を図っていきます。

まちづくりの面では、昨年組合設立が認可された大門町2丁目中地区市街地再開発が、大宮駅東口のリーディングプロジェクトとして進むほか、大宮区役所新庁舎の整備など、東日本の玄関口である大宮駅周辺の整備を進めてまいります。また、美園地区では、昨年オープンした「アーバンデザインセンターみその」に加え、昨日から美園駅東口の駅前複合公共施設も開設されました。さいたま市の未来の顔づくりとして、美園地区の整備についても鋭意進めてまいります。

去年は、テレビドラマ「下町ロケット」が大きな反響を呼び、中小ものづくり企業にも光の当たった年でもありました。本市にもドラマの佃製作所に負けない高い技術力、そして志を持つものづくり企業が集積をいたしております。「さいたま市成長戦略」に取り組んできた医療ものづくり都市構想や産業交流展「BIZ SAITAMA」、「東日本連携・創生フォーラム」などを通じまして、優れたものづくり企業のビジネスチャンスを広げ、グローバル展開をサポートし、さいたま市の産業経済をさらに強化していきたいと考えております。

さいたま市は平成37年に人口のピークを迎え、その後は人口減少と高齢化が急速に進むことが予想されています。ことし平成28年を入れて、あと10年ほどがその備えのために残された時間です。

迎えた新年も成長の時代から成熟の時代に向けた都市経営をしっかりと行うことで、15周年を迎えるさいたま市をこの先も持続的発展と活力のある未来に繋げていきたいと考えています。

市民一人ひとりが幸せを実感できる都市、市民や企業から選ばれる都市づくりに本年も全力で取り組んでまいりますので、皆様には、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げまして、平成28年の年頭に当たっての私の挨拶とさせていただきます。

ことしもどうぞよろしくお願いいいたします。

○ 埼玉新聞

ありがとうございました。

それでは、幹事社として代表質問させていただきます。

幹事社質問：今年の抱負と今年の漢字を1文字あげるとすれば。

先ほど市長がことしの抱負のようなこともおっしゃっていただいたのですが、改めて年頭に当たりまして、2016年、ことしの抱負をお願いいたします。2期目の市長任期が残り1年半弱となる中、特に力を入れて取り組みたい政策課題や目標、数値などを含めてですが、ありましたら具体的にお話してください。

また、市長は例年、ことしの漢字1文字を年頭に挙げていらっしゃいますが、ことしの目標を象徴する漢字がありましたら発表していただき、その理由もあわせてご説明ください。

○ 市 長

それでは、幹事社質問にお答えをしたいと思います。

先ほどの年頭あいさつの中でも、本市の市政運営としていくつかの取組を申し上げたところでありますけれども、どれ一つとっても重要なものばかりでございます。本年は、さいたま市が誕生して15年となる節目の年であり、本市の強みを徹底的に生かした施策や事業に力を入れて取り組んでまいります。

まず、平成27年度のさいたま市民意識調査では、「住みやすい」と答えた方々が82.9%、また「住み続けたい」が84.3%となるなど、ともに平成19年の調査開始以来、最多となったところであります。本年は強みを生かしたさまざまな施策や事業の取組を進めることで、市民の皆さんがさいたまに住んでよかったと思うこの市民満足度、住みやすいと言っている市民の割合90%以上に向けまして、一歩でも二歩でも近づけるよう、さらなる高みを目指していきたいと思っております。

また、市民の皆様が住みやすいと実感できるまちづくりの実現に当たりましては、特に福祉や子育て等の施策の充実が重要であると考えております。「子育て楽しいさいたま市」を目指し、「さいたま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げております多子世帯支援の推進、あるいは妊娠・出産包括支援センターの設置など、安心して子供を産み育てられるまちに向けまして施策や事業を展開してまいります。

中でも保育所等の待機児童数につきましては、昨年4月時点で95人まで減少していることから、施設の整備拡充やきめ細やかな相談支援などの取組により、平成29年(4月に向けて)着実に減少させていきたいと考えております。

また、今後高齢者数が大幅にふえる中で、高齢者が住みなれた地域で安心して暮らせるように、平成29年4月の新制度への移行に向けまして、地域包括ケアシステムの構築を進めてまいりたいと考えております。あわせて市民の方々に最先端の医療を提供できるよう、さいたま市立病院につきまして平成32年1月の開院に向けまして建て替え及び救命救急センターの設置を進めていくほか、さいたま赤十字病院、さいたま北部医療センターの建て替えによる機能強化を促進するなど、今後に備えた救急医療体制の充実も図っていききたいと考えております。

次に、ことしは「リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック」が開催される、そんな年でもございます。市民のスポーツに対する関心が高まるものと考えております。こうした市民のスポーツに対する関心を高めるきっかけに、運動不足、また健康増進等に対する市民意識の向上、スポーツへの取組を促して、「さいたま国際マラソン」、「さいたまクリテリウム」などのスポーツイベント、あるいは、「スマートウェルネスさいたま」に関する各種取組などを通じまして、「日本一スポーツで笑顔あふれるまち」をつくっていききたい、また、そのためのブランド力を高めていききたいと考えております。

特にスポーツイベントについては、シティセールスとあわせまして大会PRのさらなる拡充に努め、昨年以上の来場者数を目指していききたいと考えております。

また、ことしは「未来の発見！」をテーマに、世界に開かれた創造と交流の場をつくり出すことを目指す国際芸術祭「さいたまトリエンナーレ2016」を開催いたします。トリエンナーレの開催をさいたま発の先進的な都市文化、さいたま文化の創造・発信、さいたま文化を支える人材の育成、さらにさいたま文化を生かしたまちの活性化につなげてまいりたいと考えております。詳細は、これから決めていくところもございますが、できるだけ多くの参加者、来場者を目指してまいりたいと思います。

そのほか、ことし3月に北海道新幹線が開業します。本市と北海道が約4時間弱で結ばれることになり、交通の利便性がさらに高まることとなります。本市とそれぞれの自治体のウイン・ウインの関係を築いていくことで、本市の持続可能な発展につながるものと考えております。

昨年10月に「東日本連携・創生フォーラム」を開催したところですが、本年は東日本のハブシティとして、その成果を具体化していきたいと思えます。

また、大宮駅東口周辺地区につきましては、大宮駅周辺地域戦略ビジョンに基づき、公共施設の再編を推進してきたところですが、これらをしっかりと軌道に乗せ、また、大宮区役所の建て替えについては、平成31年の5月の供用開始に向けまして着実に事業を進めてまいりたいと思えます。また、「大宮駅東口大門町2丁目中地区市街地再開発事業」については、平成32年度の事業完了に向けまして積極的に再開発組合への支援を行ってまいります。

次に、ことしの漢字でございますが、ことしの漢字としては「繋」という、これは「つながる、つなぐ」という意味の漢字であります。去年の北陸新幹線、金沢延伸に続きまして、ことしはいよいよ北の大地であります北海道と繋がる、北海道新幹線が3月開業することになりまして、まさに北海道、東北、上越、信越、それから北陸といった地域とさいたま市はしっかりと繋がっていきます。日本海と太平洋を繋いでいく、また東日本全体を繋いでいくという役割をさいたま市は持つということになると思えます。さいたま市が一つの繋ぎ役となって東日本全体をしっかりと繋げて、東日本全体が明るい未来に繋がっていく、そんな年にしていきたい、そんな役割を果たしていきたいと考えております。

幹事社質問に関する質問

- 埼玉新聞 ありがとうございました。
代表質問の説明に関して、質問がある社はよろしく願いいたします。
- 日本経済新聞 日本経済新聞でございます。
ことしの抱負の政策の中で触れられていなかったもので、ちょっと伺いたいことがあります。地下鉄7号線の延伸について、(交通)政策審議会の答申が今年度中をめどと言われておりますけれども、この地下鉄7号線の延伸、今年度、2016年、どういうふうにお取り組みになるか、お考えがあればいただければと思えます。
- 市長 地下鉄7号線の延伸につきましても、東日本の中核都市を目指していくさいたま市には不可欠のプロジェクト、事業であると考えております。現

在も43の方策、またプラスアルファを進めながら、浦和の東部から岩槻にかけてのまちづくりをしっかりと進めていく上で、大変重要な路線になるという認識をしております。こういった事業を着実に実行しながら、今お話のあったとおり今年度ちょうど交通政策審議会の答申も出されることになると思いますので、それらも踏まえながら、またそれらにしっかりと答申をしていただきながら着実に事業を進めていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 ほかはいかがでしょうか。

幹事社から、先ほど市長がお話しになった内容について幾つか質問させていただきます。まず、市民満足度90%に向けてさらに高みを目指したいということと、あと待機児童を減少させていくということをおっしゃっていたと思うのですが、例えばことしの市民満足度をどのぐらいのパーセントにしたいですとか、待機児童を何人以下に抑えたいですとか、具体的な数字がありましたらお願いいたします。

○ 市 長 まず、市民満足度といいますか、「住みやすい」という市民の割合を2020年までに90%以上という目標を立てておりますので、多少年度によって上がったり下がったりというのはあると思えますけれども、一つの目安としてやはり85、6%まで上がってほしいという思いはございます。

それから、待機児童につきましては、やはりできれば半減以下になればうれしいと思っておりますけれども、待機児童についてはいろいろな要素がございますので、一つの目安として29年4月にゼロを目指すということから、逆算するとそのぐらいの数字が一つのめどにはなるのかと思っております。

○ 埼玉新聞 それから、もう一つなのですけれども、トリエンナーレに関してお伺いします。先ほど日本一参加者が多い国際芸術祭にしたいとおっしゃっていましたが、参加者、来場者、それぞれ具体的な目標数値があれば教えてくださいたいことが一つ。

それから、トリエンナーレに関して、昨年12月議会で債務負担行為の部分で減額されて修正可決されているということで、使われる予算について適正なのかどうなどということで、議会で少し疑義が出たりとか、そういう意味で市民への浸透等がまだ進んでいないのかなとも見えますが、こ

の辺をどう本番に向けて盛り上げていこうと考えていらっしゃるか伺いいたします。

○ 市長 まず、目標の参加者あるいは来場者の数については、今、イベント内容のことも十分踏まえながら検討しているところでもありますので、もう少しお時間をいただければと思っているところでございます。

それから、もう一つの本番に向けてのPR等については、今後も全国的に発信するというだけでなく、地域についても、さいたま市内についても、もう少しきめ細やかにPR活動を行っていく必要があるだろうと思っていますので、そういったきめ細やかなPR活動と皆様方に大きく取り上げていただくなど含めまして全国発信をする部分と、両方きめ細やかなPR活動ということをご心掛けていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 ほかはいかがでしょうか。

もしなければ、そのほかの点に関して質問がある社お願いします。

その他質問：中小ものづくり企業への支援と下町ロケットの感想について

○ 日刊工業新聞 日刊工業新聞社です。

先ほど中小ものづくり企業についてお話がありましたけれども、改めて中小ものづくり企業について何か支援とか、ことし改めて考えていらっしゃるものがあれば、中小ものづくり企業についてお聞きしたいと思います。

もう一つ、先ほど「下町ロケット」の件で佃製作所に負けないような企業がさいたま市にたくさんあるというお話ありましたけれども、「下町ロケット」の感想があればお聞きできればと思います。よろしくお願いします。

○ 市長 それではまず、中小ものづくり企業への支援ということについてですが、これまでもさいたま市としてはテクニカルブランド、今はリーディングエッジ企業という名称に変わりましたが、それらの認証制度であったり、各種のオーダーメイド型の支援を行ってきたわけでありまして。また最近では成長戦略に基づきまして、医療ものづくり都市構想、こういったものを推進してきました。まさに「下町ロケット」の佃製作所のように、世界シェアの何割も持っている企業であったり、非常に技術力の高い先進的な海外の企業などとも取引をしている企業も幾つかございます。そういった企業が今後さらに発展していくためには、まず国内に目をやるとやはり

医療分野、医療機器の分野というのは非常に拡大していくということが予想されております。そういった部分での今後のさらなる医療ものづくり都市構想での支援拡充をしていきたいと思っております。そして今後さらに海外展開への支援、これらについてもより一層強化をしていきたいと思っております。また、具体的なものについては、予算の部分で後ほどいろいろお話をさせていただくということでご理解いただきたいと思います。

「下町ロケット」は私も大体欠かさず見ましたけれども、まさに日本の経済の縮図のような感じがしました。もちろん大企業も素晴らしいところがたくさんありますけれども、やはり特に中小企業が日本の経済を支えていて、その中小企業の皆さんの経営者、あるいは働いている方々のものすごい高い志と努力によって、日本経済は支えられてきている、これまでも支えられてきたし、これからもそういった皆さんの力というのは重要であると改めて思ったところであります。これからも、さいたま市もそういう志と技術力を持った企業をしっかりと応援していきたい、そういう思いをさらに強くしました。

○日刊工業新聞 ありがとうございます。

その他質問：15周年に向けた特別な施策、イベントについて

○ 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

先ほど市長から、ことしはさいたま市15周年の節目の年ということでご説明ありました。昨年が岩槻区誕生10周年で、ことしがさいたま市誕生15周年ということなのですけれども、この15周年に向けての特別な施策ですとかイベントですとか、何か市民にわかるような形になるものがありましたら教えていただければと思います。

○ 市 長 今年度、具体的に15周年という式典みたいなものについてはやる予定はございませんけれども、「さいたまトリエンナーレ」が15周年のシンボリックな事業の一つになるのだろうと私たちは思っております。そういう意味では、ちょうど15年という節目の年でもあり、そのトリエンナーレ、それから今進めているスポーツイベント、それから東日本地域との連携、こういったものが15周年のまさにシンボリックなものになってくるのかと考えております。

- 埼玉新聞 ほかはいかがでしょうか。

その他質問：参議院選挙について

私からも1点お伺いしたいのですが、もう少し先になりますが、ことしの夏、参議院選挙が行われます。市長は、この参議院選挙について、もう支援する、例えば候補者とか政党とかは決めていらっしゃるかどうかということをお伺いしたいのと、決めるとすればどのような基準で選び、そして支援するとしたらどういう形で支援等をしたいと考えていらっしゃるかをお聞かせください。

- 市長 現時点で、参議院選挙でどういうふうに対応するかということについては、まだ具体的には何も考えておりません。ただ、さいたま市政を運営するに当たって、参議院の議員の方々にも、これまでも大変お世話になってきたと、またご協力をいただいて国とつないでいただいたり、あるいは応援をしていただいているという経緯もございますので、そういったところなども踏まえて対応していきたいと考えております。

- 埼玉新聞 そうしますと、さいたま市の施策を進める上での国とのパイプ役とか、そういった部分を重視されてということになるのでしょうか。

- 市長 そうですね。もちろんこれまでも、党派を超えて皆さん大変協力をしていただいておりますので、そういったことも踏まえて、どういう対応がいいのかというのは考えていきたいと思えます。今のところ、現時点ではどういふ対応ということについては、特に具体的には考えておりません。

- 埼玉新聞 ほかはいかがでしょうか。

その他質問：トリエンナーレについて

- 朝日新聞 朝日新聞です。

先ほどさいたま市15周年の記念式典はないけれども、トリエンナーレがシンボリックなイベントになるだろうということですがけれども、トリエンナーレの総額の予算が7億円で、その7億円の範囲内で、さいたま市15周年の何か冠をつけたイベントをやるとか、そういう意味なのでしょうか。それとも、何か名目だけはさいたま市15周年という冠をつけるような形にして、中身はあくまでも現代アートの祭典ということになるのでしょうか、何かつけ加えるのかどうか。

- 市長 いろいろな表示の仕方とか冠の出し方みたいなものは、これから具体的

に詰める必要があるかと思えますけれども、私どもとしては、15周年のシンボリックなものの一つとして「さいたまトリエンナーレ」という事業をスタートさせ、取り組んでいくと考えておりますので、その中で、もちろんトリエンナーレに15周年という冠をつけるかどうかということもありますけれども、あとはそれぞれこれまでやっているいろいろな事業がございます。その中でそういった冠をつけたいということも出てくるかもしれませんが。あるいはトリエンナーレとの関連の中でいろいろな事業を、現状やっているものを少し工夫してやろうという事業なども出てくるかもしれません。

いずれにしても、15周年という記念式典は行いませんけれども、さいたま市を全国に発信をする大変重要な機会でもあらうと思っておりますので、そういう意味では単にトリエンナーレをやるとか、トリエンナーレだけの部署の問題ということではなくて、全庁を挙げてみんなで取り組んでいきたいと思っております。

ただ、名称のつけ方とかについて、どのようにしていくかは今後具体的に検討することになると思います。

○ 埼玉新聞 ほかはいかがでしょうか。

その他質問：マイナンバーについて

○ 読売新聞 読売新聞と申します。

新年、新しい年を迎えてマイナンバー制度が本格始動したと思うのですが、ほかの自治体の窓口では多少混乱もあつたりするようなのですが、さいたま市では何か混乱などはありますでしょうか。

○ 市長 マイナンバーについてのご質問ですがけれども、現状としては大きな混乱はないと聞いておまして、窓口での運用統一など現在図っておまして、昨日からということもございますけれども、順調なスタートができたと考えております。ただ、1月から区役所等の窓口で実際にこのマイナンバーの利用が、税の減免申請であるとか、あるいは国民健康保険の異動届であるとか、あるいは児童手当請求などの申請に記入が必要ということになります。しっかりと周知も図っていく必要があるということで、区役所等にポスターの掲示であるとか、あるいは市報などで積極的に周知をしております。また、年内に郵送されました通知カードとあわせて身分証明書の提

示も必要になりますので、そういったこともあわせて今周知をしているところでもあります。現時点では、まだスタートしたばかりということもありますけれども、今のところ順調な、特に大きな混乱はないという状況でございます。

- 埼玉新聞 ほかはいかがでしょうか。
 どうもありがとうございました。以上をもちまして、本日の記者からの質問を終了させていただきます。
- 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
 次回の開催は、1月29日金曜日、1時半からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。
- 市 長 ことしもよろしく申し上げます。

午前11時37分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。